

# 幼児・小学生の生活に対する 新型コロナウイルス感染症の 影響調査

-2020年5月実施-



本調査は、一部の地域が新型コロナウイルス流行に伴う緊急事態宣言下にあり、多くの園や学校が休校だった時期に、幼児と小学生の生活の実態と、保護者の関わり、生活や学習に関する意識を把握する目的で行いました。ここに幼児と小学生、その保護者に対する新型コロナの影響をまとめ、報告します。

## ●目次●

調査概要・基本属性・・・p2  
基本属性・・・p3

### ①子どもの基本的生活時間

- ①幼児の起床・就寝時刻・・・p4
- ②小学生の起床・就寝時刻・・・p5

### ②子どもの生活と育ち

- ①幼児の遊び・メディアとの接触時間(調査時点)・・・p6
- ②幼児の遊び・メディアとの接触時間(変化)・・・p7
- ③幼児と小学生の成長や心身のストレス・・・p8

### ③園と小学校の対応・・・p9

### ④小学生の家庭での学習実態

- ①取り組む教材・家庭での学習時間・・・p10
- ②家庭での生活や学習の様子・・・p11
- ③母親の関わりと変化・・・p12

### ⑤デジタルメディアの活用実態と意識の変化

- ①小学生の活用実態・・・p13
- ②母親の意識の変化と学習活用のメリット・・・p14

### ⑥母親の悩み・意識や考え・気持ち

- ①母親の悩みや気がかり・・・p15
- ②新型コロナの受け止めや家庭教育や学校・園に関する意識・・・p16
- ③子育てや教育について感じること-自由回答より-・・・p17
- ④子育てに向き合う気持ち・・・p18

### ⑦子育てを通じた人とのつながり、配偶者・パートナーの関わり

- ①家族意識や人とのつながり・・・p19
- ②人とのつながり、配偶者・パートナーの関わり・・・p20

### ⑧勤務状況、世帯年収・教育費の見通し・・・p21

調査監修・協力・企画・分析メンバー・・・p22

# 調査概要

## ● 調査目的

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う生活環境の変化が、幼児と小学生の親子に与えた影響を明らかにすること

## ● 調査方法

インターネット調査

## ● 調査地域

全国

## ● 調査時期

2020年5月22日～5月24日

## ● 調査対象

1歳児（2018年度生まれ）～小学6年生の子どもをもつ母親2,266名

幼児(1,030名)					小学生(1,236名)					
1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小1	小2	小3	小4	小5	小6
206名	206名	206名	206名	206名	206名	206名	206名	206名	206名	206名

## ● 調査項目

子どもの生活実態や子どもの様子、母親の子育ての悩みや気がかり、子育てに関わる意識、養育行動、今後の子育て・教育への意向など

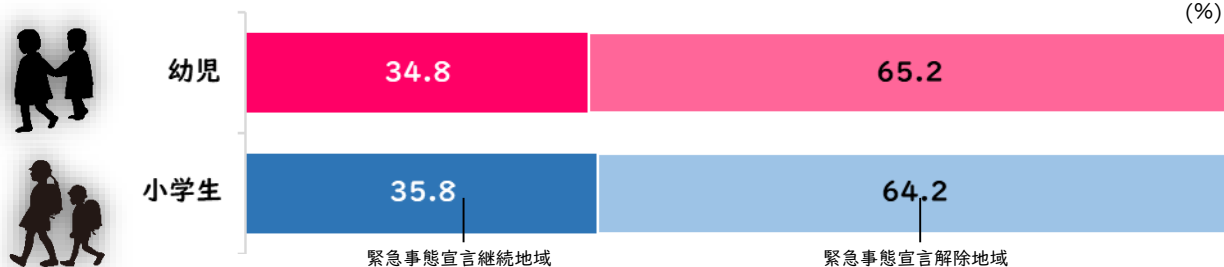
### ■ 本冊子を読む際の注意点

- ① 小学1～3年生を「小学低学年」、小学4～6年生を「小学高学年」と記す。
- ② 質問文での「現在」は、2020年5月下旬の調査時点のことを指す。2020年1月コロナウイルス流行前の平日と比較し変化を確認している。
- ③ ページで初出の際は「新型コロナウイルス」、2回目以降は略して「新型コロナ」と表記する。
- ④ 図表において、幼児(1,030名)、小学生(1,236名)それぞれ有効回収数すべてを集計している場合は、サンプル数を省略する。
- ⑤ 図表で使用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。

# 基本属性

## (1) 地域

調査時点(2020年5月)の緊急事態宣言区域別(幼児 小学生別)



※緊急事態宣言区域は、調査時期において緊急事態措置が実施されていた北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県等の5都道県の回答。

## (2) 子どもの属性

性別・きょうだい数・出生順位(幼児 小学生別)

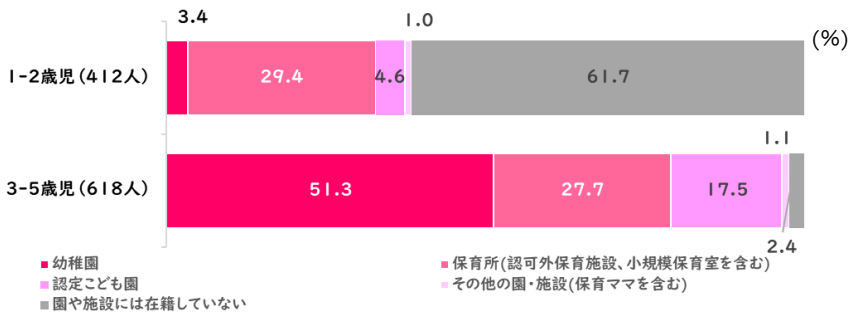
	性別		きょうだい数				出生順位			
	男子	女子	1人	2人	3人	4人以上	1番目	2番目	3番目	4番目以降
幼児	49.9	50.1	54.5	37.3	7.5	0.8	71.6	24.4	4.0	0.1
小学生	50.5	49.5	31.2	48.0	17.5	3.3	55.3	34.4	9.7	0.6

※きょうだい数では「4人以上」は「4人+5人以上」。出生順位では「4番目以降」は「4番目+5番目以降」。

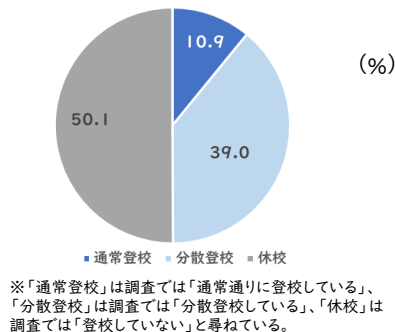
# 基本属性

## (2) 子どもの属性

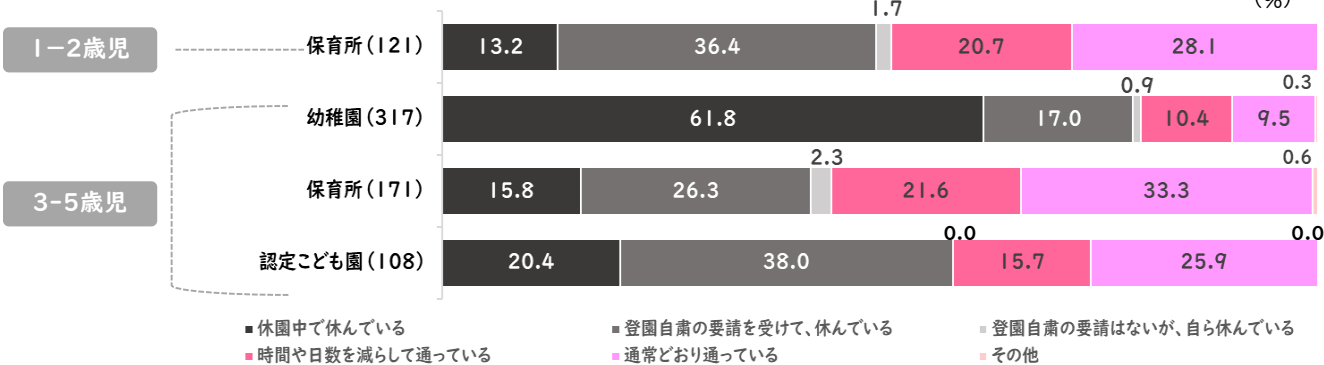
### 就園状況 (1-2歳児 3-5歳児別)



### 登校状況 (小学生)



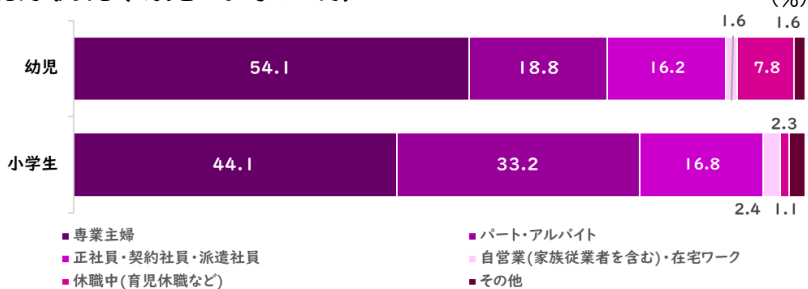
### 登園状況 (1-2歳児 3-5歳児別)



※「その他の園・施設(保育ママを含む)」に在籍する幼児が少ないため省略。

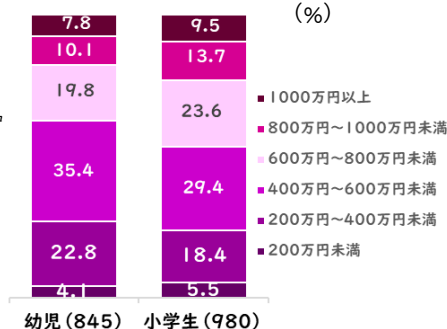
## (3) 母親の属性

### 就労状況 (幼児 小学生別)



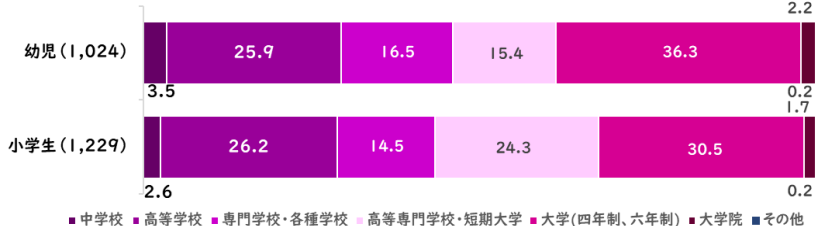
※「正社員・契約社員・派遣社員」は「正社員・正職員(休職中を除く)」、「契約社員・嘱託(休職中を除く)」、「派遣社員(休職中を除く)」の合計。「その他」は「コロナ流行の影響により休業中」と「その他」の合計。

### 昨年度の世帯年収(税込み) (幼児 小学生別)



※「わからない・答えたくない」は集計対象から除く。

### 最終学歴 (幼児 小学生別)



※「答えたくない」は集計対象から除く。

# 子どもの基本的な生活時間

## ① 幼児の起床・就寝時刻



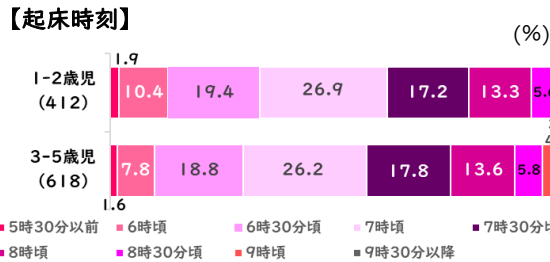
### 登園していない園児の睡眠時間は、 コロナ以前より若干増加。

調査時点(2020年5月)と新型コロナウイルス以前(同年1月)の起床・就寝時刻を尋ねた。1-2歳児はほとんど変化がない。3-5歳児は登園状況による差がみられ、登園していない園児(休園中で休んでいる+登園自粛の要請を受けて、休んでいる)は新型コロナウイルス以前より起床・就寝時刻ともに遅くなる傾向がみられた。

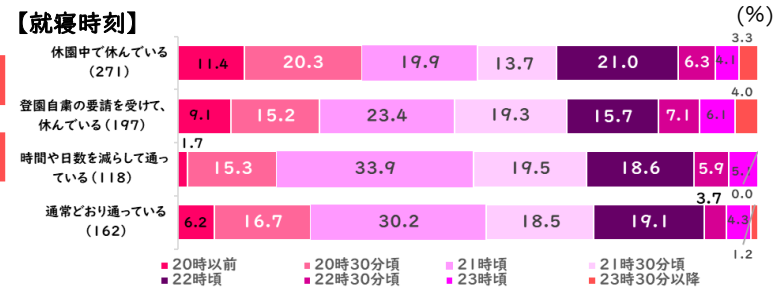
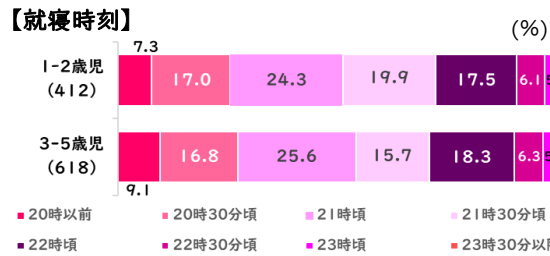
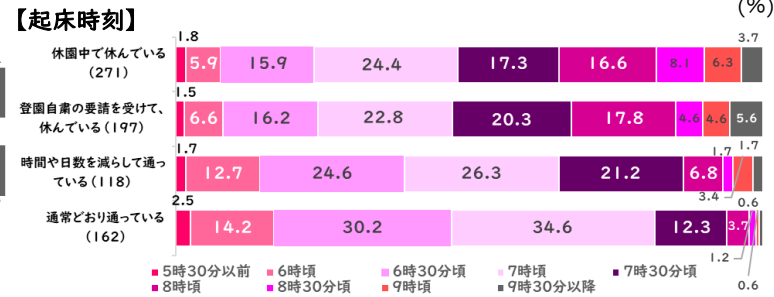
起床・就寝時刻から平均睡眠時間を算出したところ、登園していない園児は新型コロナウイルス以前より7、8分長くなっている。

Q.現在(調査時点)と2020年1月の平日のそれぞれについて、朝起きる(起きていた)時間と夜寝る(寝ていた)時間を教えてください。

■ 図1-1-1 2020年5月の起床・就寝時刻  
(1-2歳児と3-5歳児)



■ 図1-1-2 2020年5月の起床・就寝時刻  
(登園状況別)



※「23時30分以降」は「23時30分頃」「24時頃」「24時30分以降」の合計。

※「23時30分以降」は「23時30分頃」「24時頃」「24時30分以降」の合計。

■ 表1-1-1 2020年1月と2020年5月の平日の平均起床・就寝時刻(1-2歳児と3-5歳児 登園状況別)

	2020年5月下旬(調査時点)①			2020年1月時点②			睡眠時間の差 ①-②
	平均 就寝時刻	平均 起床時刻	平均 睡眠時間	平均 就寝時刻	平均 起床時刻	平均 睡眠時間	
1-2歳児(412)	21:23	7:11	9時間48分	21:23	7:13	9時間50分	-2分
3-5歳児(618)	21:22	7:18	9時間56分	21:13	7:04	9時間51分	+5分
休園中で休んでいる(271)	21:20	7:26	10時間06分	21:07	7:06	9時間59分	+7分
登園自粛の要請を受けて、休んでいる(197)	21:26	7:25	9時間59分	21:13	7:04	9時間51分	+8分
時間や日数を減らして通っている(118)	21:23	7:02	9時間39分	21:20	7:02	9時間42分	-3分
通常どおり通っている(162)	21:19	6:49	9時間30分	21:21	6:52	9時間31分	-1分

※「平均就寝時刻」は「20時以前」を「19時30分」、「20時30分頃」を「20時30分」のように置き換えて算出した。「平均起床時刻」は「5時30分以前」を「5時」、「6時頃」を「6時」のように置き換えて算出した。「平均睡眠時間」は「平均就寝時刻」と「平均起床時刻」から算出した。

# 子どもの基本的な生活時間

## ②小学生の起床・就寝時刻



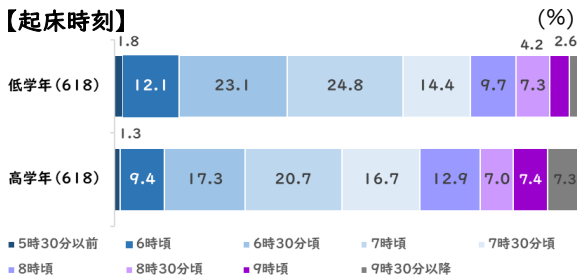
### 休校中の子どもの睡眠時間は、 コロナ以前より増加。

調査時点(2020年5月)と新型コロナウイルス以前(同年1月)の起床・就寝時刻を尋ねた。登校状況による差がみられ、通常登校、分散登校、休校と学校に通う頻度が低くなるにつれ、新型コロナ以前より起床・就寝時刻ともに遅くなる傾向がみられた。

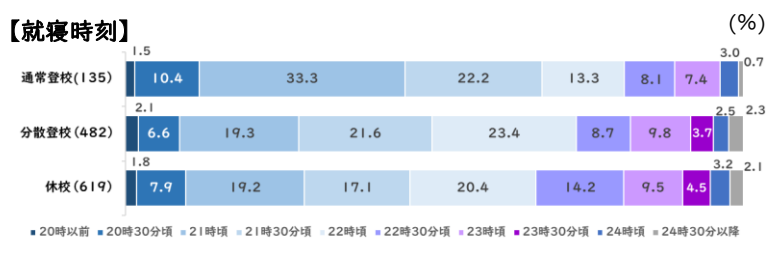
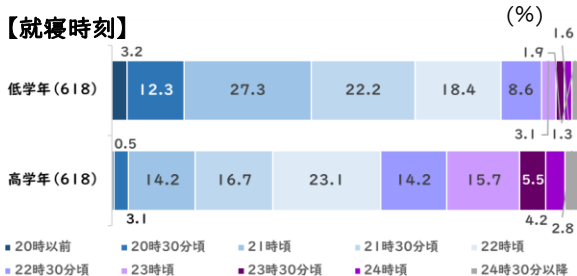
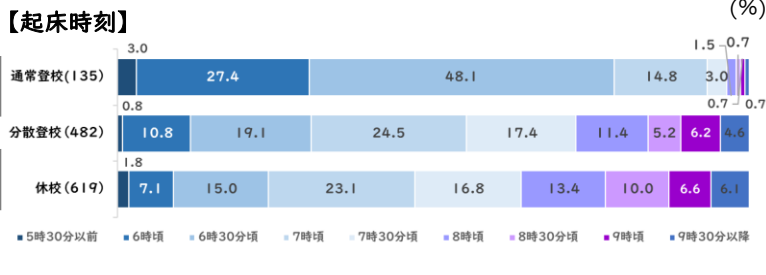
起床・就寝時刻から平均睡眠時間を算出したところ、休校中の子どもは新型コロナ以前より21分長くなっている。また高学年全体では、睡眠時間が22分長くなっている。

Q.現在(調査時点)と2020年1月の平日のそれぞれについて、朝起きる(起きていた)時間と夜寝る(寝ていた)時間を教えてください。

■図1-2-1 2020年5月の起床・就寝時刻  
(低学年と高学年)



■図1-2-2 2020年5月の起床・就寝時刻  
(登校状況別)



■表1-2-1 2020年1月と2020年5月の平日の起床・就寝時刻(低学年と高学年 登校状況別)

	2020年5月下旬(調査時点)①			2020年1月時点②			睡眠時間の差 ①-②
	平均 就寝時刻	平均 起床時刻	平均 睡眠時間	平均 就寝時刻	平均 起床時刻	平均 睡眠時間	
低学年(618)	21:32	7:10	9時間38分	21:16	6:44	9時間28分	+10分
高学年(618)	22:11	7:27	9時間16分	21:47	6:41	8時間54分	+22分
通常登校(135)	21:34	6:31	8時間57分	21:31	6:37	9時間6分	-9分
分散登校(482)	21:52	7:18	9時間26分	21:30	6:42	9時間12分	+14分
休校(619)	21:55	7:29	9時間34分	21:32	6:45	9時間13分	+21分

※「平均就寝時刻」は「20時以前」を「19時30分」、「20時30分頃」を「20時30分」のように置き換えて算出した。「平均起床時刻」は「5時30分以前」を「5時」、「6時頃」を「6時」のように置き換えて算出した。「平均睡眠時間」は「平均就寝時刻」と「平均起床時刻」から算出した。

## 2 子どもの生活と育ち

### ① 幼児の遊び・メディアとの接触時間（調査時点）

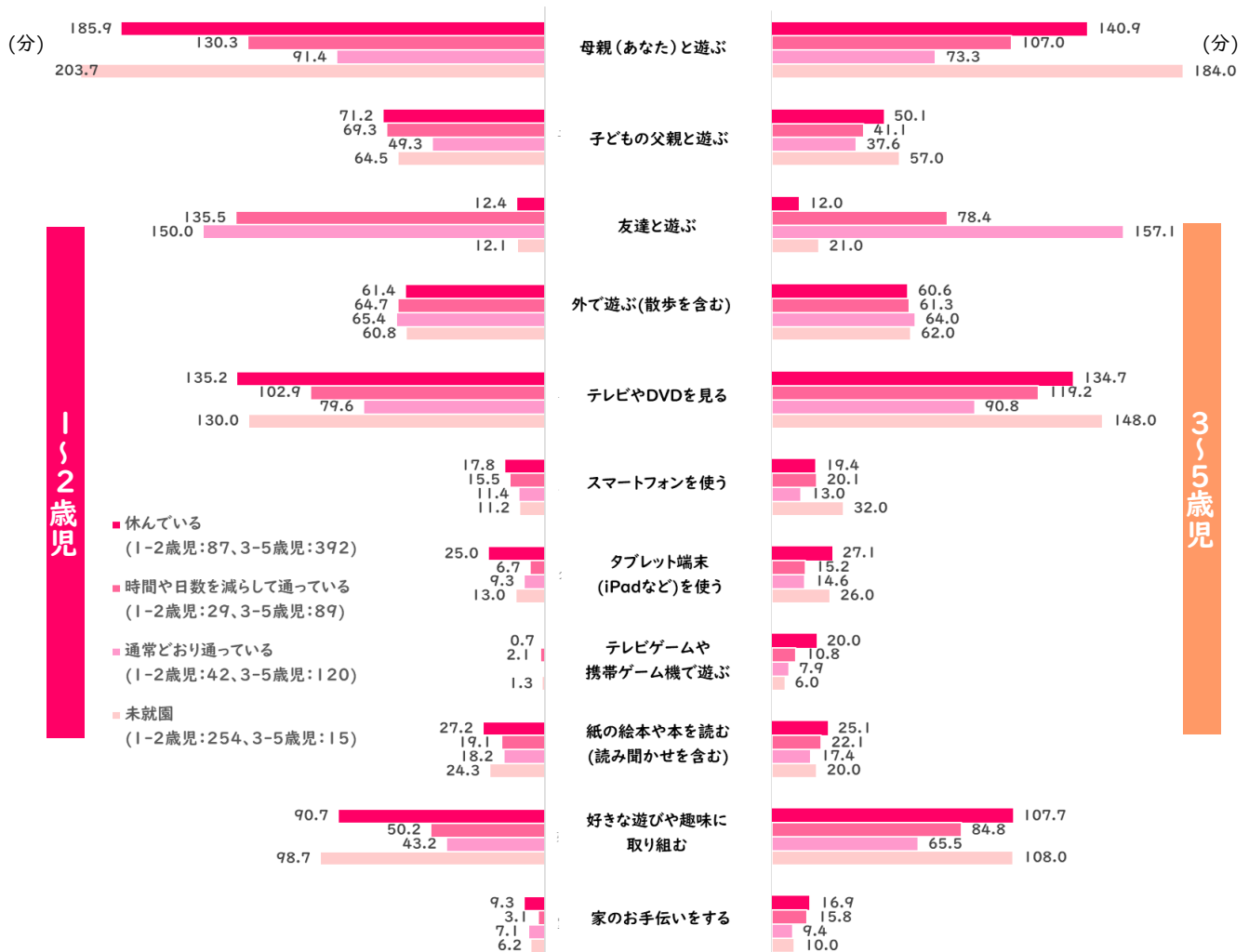


# 休園中の園児は、母親と遊ぶ時間やデジタルメディアとの接触時間が長い。

調査時点（2020年5月）の遊び・メディアとの接触時間を尋ねた。休園中の園児は通園中の園児と比べ、母親と遊ぶ時間が多い一方、友だちとの遊ぶ時間が少なかった。また、休園中の園児は通園中の園児と比べ、テレビやDVD、スマートフォンやタブレットのデジタルメディアとの接触時間、好きな遊びや趣味に取り組む時間が長くなっている。年齢別にみると、1-2歳児と3-5歳児は同じ傾向である。

Q.あなたからみて、対象のお子様は、現在（調査時点）、平日1日にどれくらいの時間以下のことをしていますか。

■ 図2-1-1 2020年5月の遊び時間・メディアとの接触時間の平均（登園状況別）



※設問「現在、在籍する園などに通っていますか」に「その他」と回答した人は集計対象から除く。

※「子どもの父親と遊ぶ」は、父親と同居している人のみ回答。1-2歳児：休んでいる(83名)、時間や日数を減らして通っている(29名)、通常どおり通っている(38名)、未就園(24名)。3-5歳児：休んでいる(377名)、時間や日数を減らして通っている(88名)、通常どおり通っている(108名)、未就園(15名)。

## 2 子どもの生活と育ち

### ② 幼児の遊び・メディアとの接触時間(変化)



テレビやDVDを見る時間は、  
コロナ以前より顕著に増加。

調査時点(2020年5月)と新型コロナウイルス以前(同年1月)の遊びやメディアとの接触時間の変化を尋ねた。新型コロナウイルス以前より「増えた」と回答した割合が5割を超えたのは、1-2歳児では、テレビやDVDを見る時間だけだった。一方、3-5歳児では、テレビやDVDを見る時間は約7割、好きな遊びや趣味に取り組む時間は約6割、母親と遊ぶ時間は約5割が「増えた」と回答している。

Q.あなたからみて、対象のお子様は、現在(調査時点)、平日1日にどれくらいの時間以下のことをしていますか。

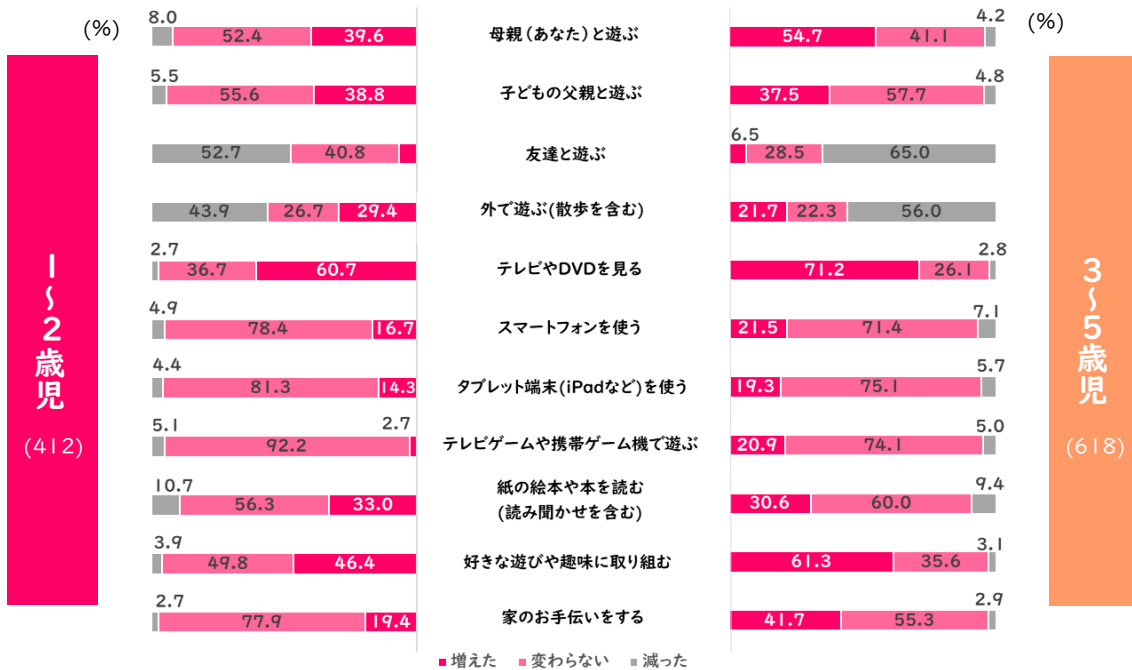
■表2-2-1 2020年5月の遊び時間・メディアとの接触時間の平均(1-2歳児と3-5歳児)

	1-2歳児(412)	3-5歳児(618)	(分)
母親(あなた)と遊ぶ	183.3	124.3	
子どもの父親と遊ぶ	64.8	46.6	
友達と遊ぶ	34.9	50.3	
外で遊ぶ(散歩を含む)	61.7	61.4	
テレビやDVDを見る	124.1	124.2	
スマートフォンを使う	12.9	18.5	
タブレット端末(iPadなど)を使う	14.7	22.8	
テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ	1.1	15.9	
紙の絵本や本を読む(読み聞かせを含む)	24.0	23.1	
好きな遊びや趣味に取り組む	87.9	96.2	
家のお手伝いをする	6.7	15.1	

※「しない」は0分、「15分」は15分、「30分」は30分、「1時間」は60分、「2時間」は120分、「3時間」は180分、「4時間」は240分、「5時間以上」は300分として平均値を算出。

Q. 2020年1月の平日と比べて変化はありますか。

■図2-2-1 遊び時間・メディアとの接触時間の変化(1-2歳児と3-5歳児)



## 2 子どもの生活と育ち

### ③幼児と小学生の成長や心身のストレス

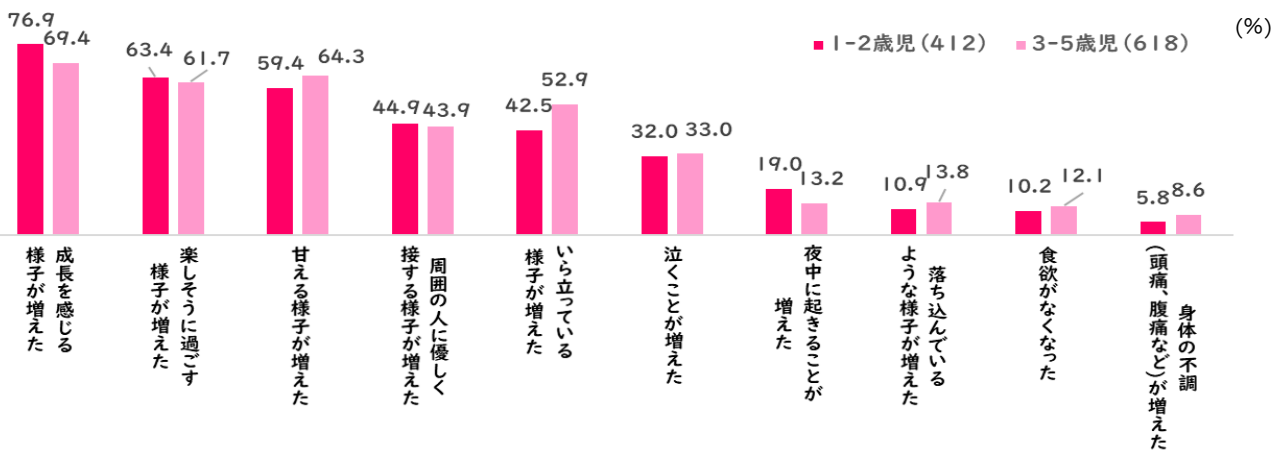


成長を感じる一方で、いら立ちや甘える様子も増加。

新型コロナウイルス以前(2020年1月)と調査時点(同年5月)を比較して子どもの言動の変化を尋ねた。幼児では、約7割の母親は子どもの成長を感じ、約6割は楽しそうに過ごす様子が増えたと回答している。一方で、約6割の母親は甘える様子が、3-5歳児の母親の5割は子どもがいら立っている様子が増えたと回答している。小学生をみると、約5割の母親がいら立っている様子や甘える様子が増えたと回答している。

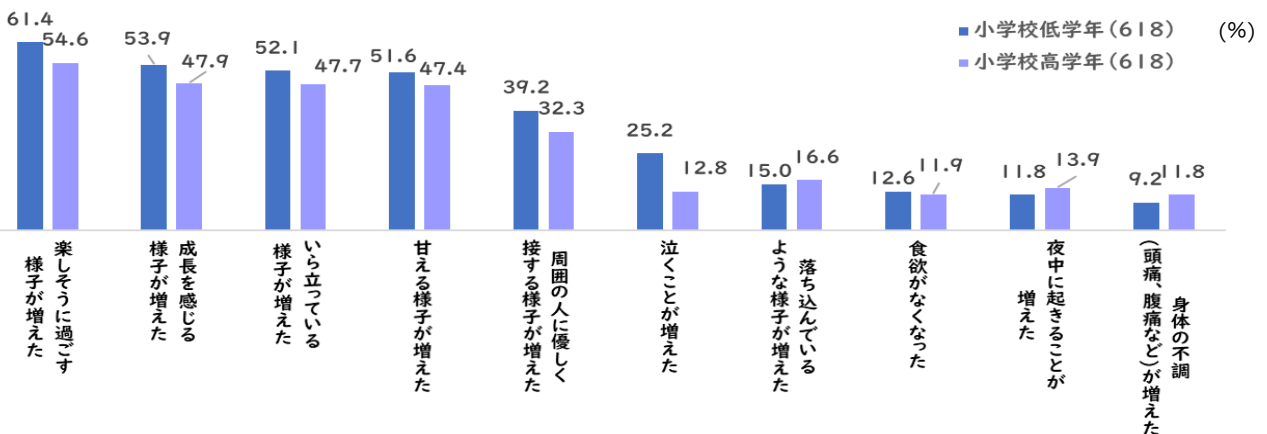
Q. 2020年1月頃(コロナ流行前)と、最近2週間くらいを比較してお答えください。  
 コロナ流行に伴う生活変化の影響で、対象のお子様に以下のような言動の変化はみられますか。

■図2-3-1 コロナ流行前と比べた幼児の様子(1-2歳児と3-5歳児)



※「とても+やや+あてはまる」の%。  
 ※1-2歳児の降順に表示。

■図2-3-2 コロナ流行前と比べた小学生の様子(小学低学年と小学高学年)



※「とても+やや+あてはまる」の%。  
 ※小学校低学年の降順に表示。



# 3 園と小学校の対応

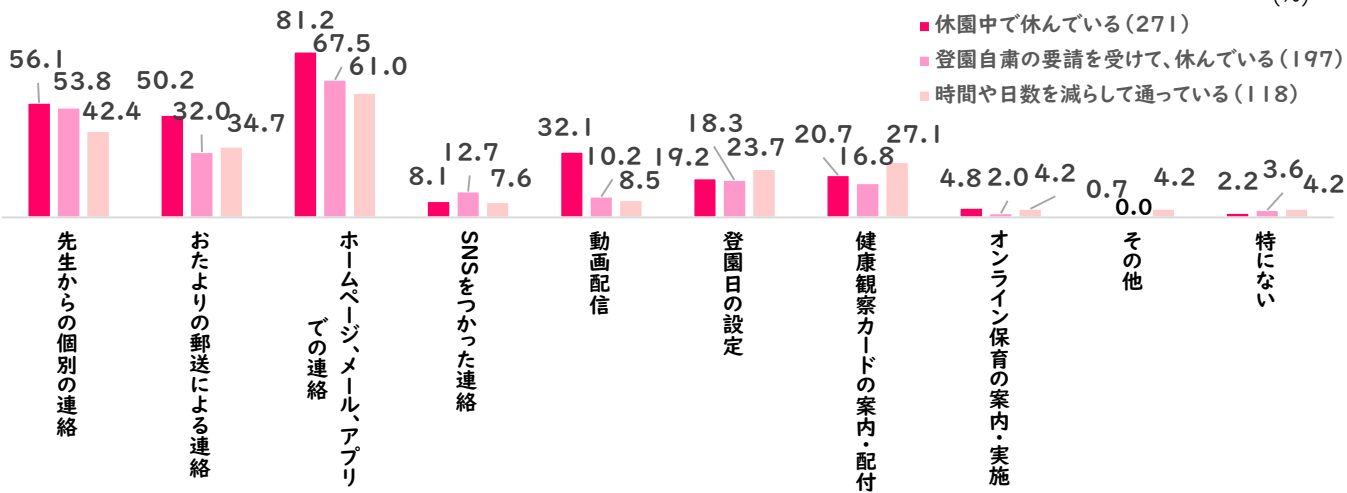


## 休校中の小学校の約2割が、オンライン授業を実施。

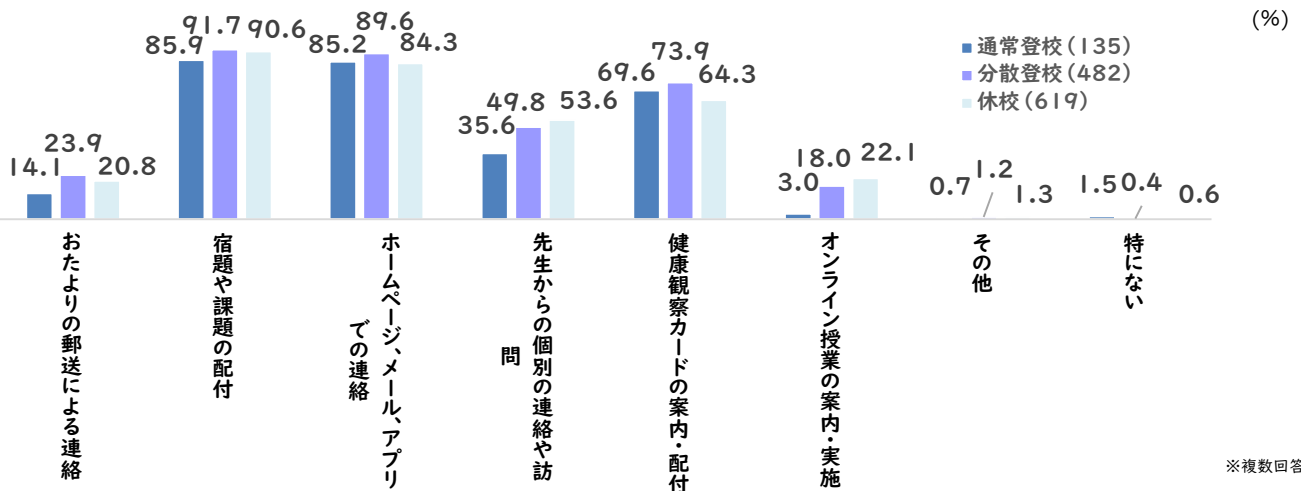
園や小学校での新型コロナウイルス対応について尋ねた。登園自粛の要請を出している園や日数を減らしている園より休園している園のほうが、個別連絡やおたより、電子メディアを使つての連絡をしている。また、登校状況にかかわらずほとんどの小学校で、宿題の配付や電子メディアを使つての連絡が実施されている。一方で、個別連絡やオンライン授業の案内は、通常登校、分散登校、休校と学校に通う頻度が低くなるにつれ多くなっている。

Q. 2020年4月以降、対象のお子様が在籍する園(小学校)で行われた対応について、あてはまるものをすべて選んでください。

■ 図3-1 園の対応(登園状況別)



■ 図3-2 小学校の対応(登校状況別)



# 4 小学生の家庭での学習実態

## ①取り組む教材・家庭での学習時間

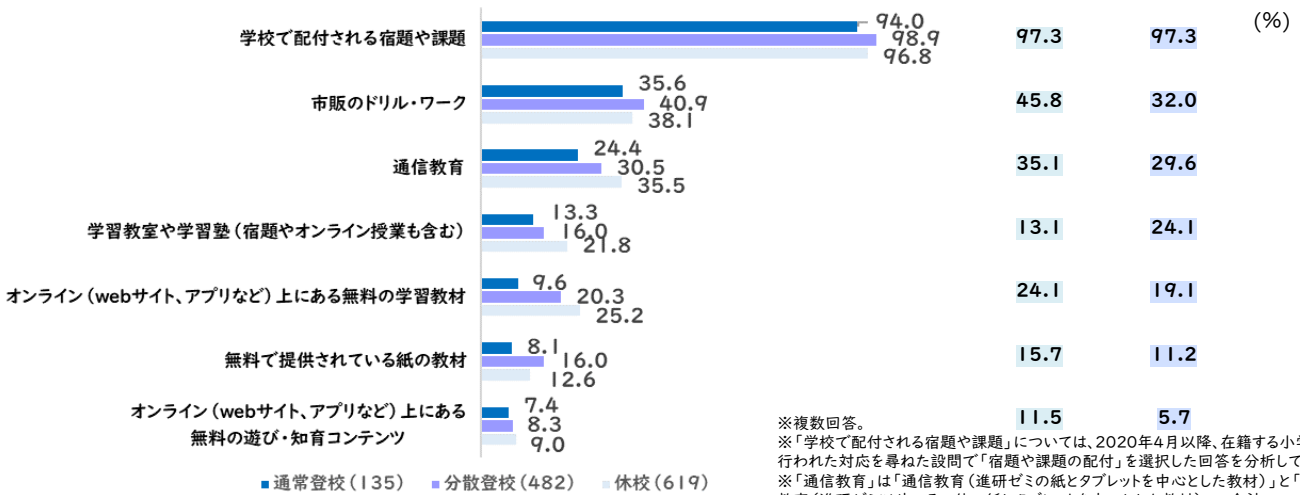


### ほとんどの子どもが学校からの宿題に取り組む。

取り組んでいる教材や家庭での学習時間を尋ねた。取り組んでいる教材をみると登校状況や学年によらず、ほとんどの子どもが学校の宿題と回答している。別の設問で「学校の宿題(紙のみ)」が「増えた」と回答した割合は、通常登校で2割5分、分散登校で5割、休校で約5割5分であり、登校できなくても子どもの学びを止めないよう学校が支援している様子がみてとれる。一方、校外学習の利用は登校状況によって差がある。また、家庭での学習時間をみると、約2時間でそのうち30分程度がデジタルメディアを活用した学習となる。

Q.現在(調査時点)、以下のような教材(や遊び)に取り組んでいますか。取り組んでいるものをすべて選んでください。

■図4-1-1 2020年5月の取り組んでいる学習教材(登校状況別 小学低学年と小学高学年) 小学低学年(555) 小学高学年(564)



Q.あなたからみて、対象のお子様は、現在(調査時点)、平日1日にどれくらいの時間以下のことをしていますか。

■表4-1-1 2020年5月の家庭での学習時間(全体・登校状況別 小学低学年と高学年)

	全体(1,236)	通常登校(135)	分散登校(482)	休校(619)	小学低学年(618)	小学高学年(618)
学校の宿題をする ※紙+デジタルメディアを活用した宿題	71.1 【9.0】	40.8 【2.7】	67.2 【6.3】	80.7 【12.4】	64.3 【7.5】	77.9 【10.4】
学校の宿題以外の勉強をする ※紙+デジタルメディアを活用した宿題	41.2 【12.4】	17.5 【5.4】	37.3 【11.5】	49.3 【14.6】	32.4 【8.8】	50.0 【16.0】
オンラインで授業を受ける (学校や習い事、塾を含む)	【13.0】	【3.8】	【8.4】	【18.6】	【8.3】	【17.7】
家庭での平均学習時間の合計	125.3 【34.4】	62.1 【11.9】	112.9 【26.2】	148.6 【45.6】	105.0 【24.6】	145.6 【44.1】
デジタルメディアを使った学習の利用率	48.6	28.9	44.0	56.5	43.5	53.7

(分) (分) (分) (分) (分) (分)

※全体数を母数にしている(勉強していないは0分として算出)。  
 ※【】内はデジタルメディアを使った学習時間。  
 ※デジタルメディアを使った学習の利用率は、「学校の宿題(デジタルメディアを使う)」、「学校の宿題以外の学習(デジタルメディアを使う)」、「オンラインで授業を受ける(学校や習い事、塾を含む)」のうち、どれか一つでも選択した割合。

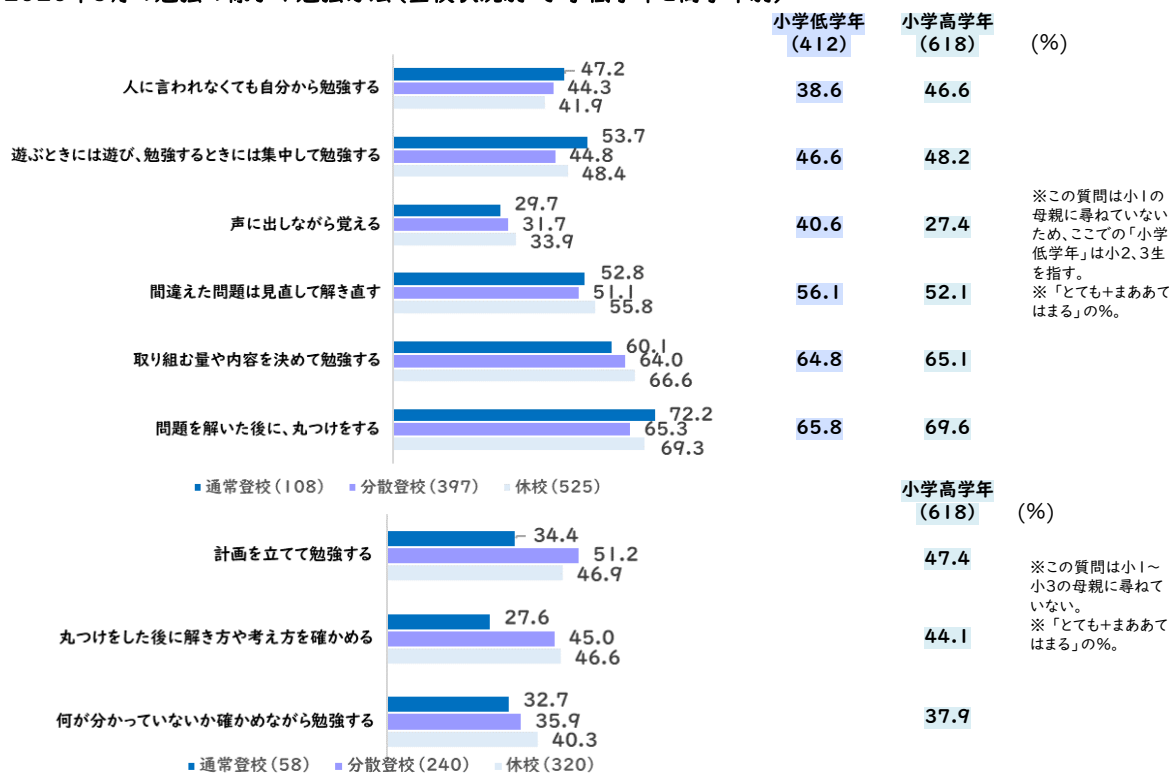


## 休校している子どもの6割は生活習慣の乱れ。

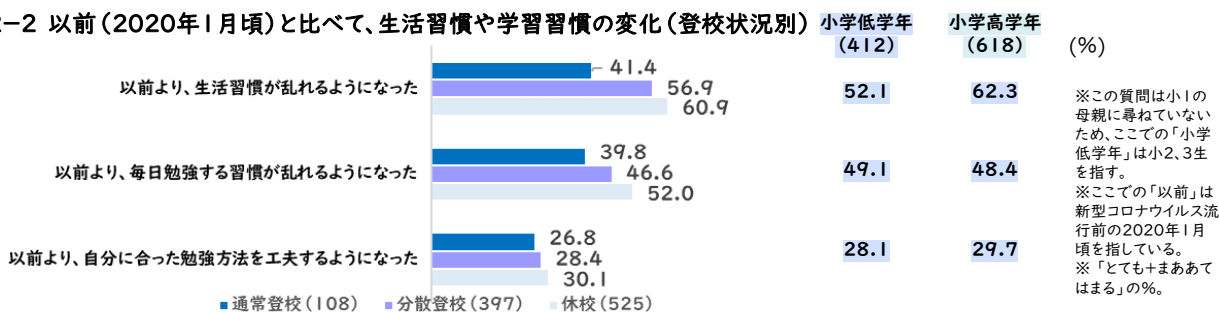
家庭での生活や学習の様子について尋ねた。学習の様子や方法を登校状況別でみると、通常登校の子どもは休校中の子どもに比べ、自分から勉強したり、メリハリをつけて集中して勉強する様子が多くみられた。一方、分散登校や休校中の子どもは通常登校の子どもに比べ、計画を立てて勉強したり丸つけた後に解き方を考える様子が多くみられた。また休校している子どもがいる母親の5～6割は子どもの学習習慣や生活習慣や学習習慣が乱れていると感じている。

Q.あなたからみて、対象のお子様の現在（調査時点）の生活や勉強について、以下のことはどれくらいあてはまりますか。

■ 図4-2-1 2020年5月の勉強の様子や勉強方法（登校状況別・小学低学年と高学年別）



■ 図4-2-2 以前（2020年1月頃）と比べて、生活習慣や学習習慣の変化（登校状況別）



## 4 小学生の家庭での学習実態

### ③母親の関わりと変化



休校している子どもがいる母親の関わりが多い。

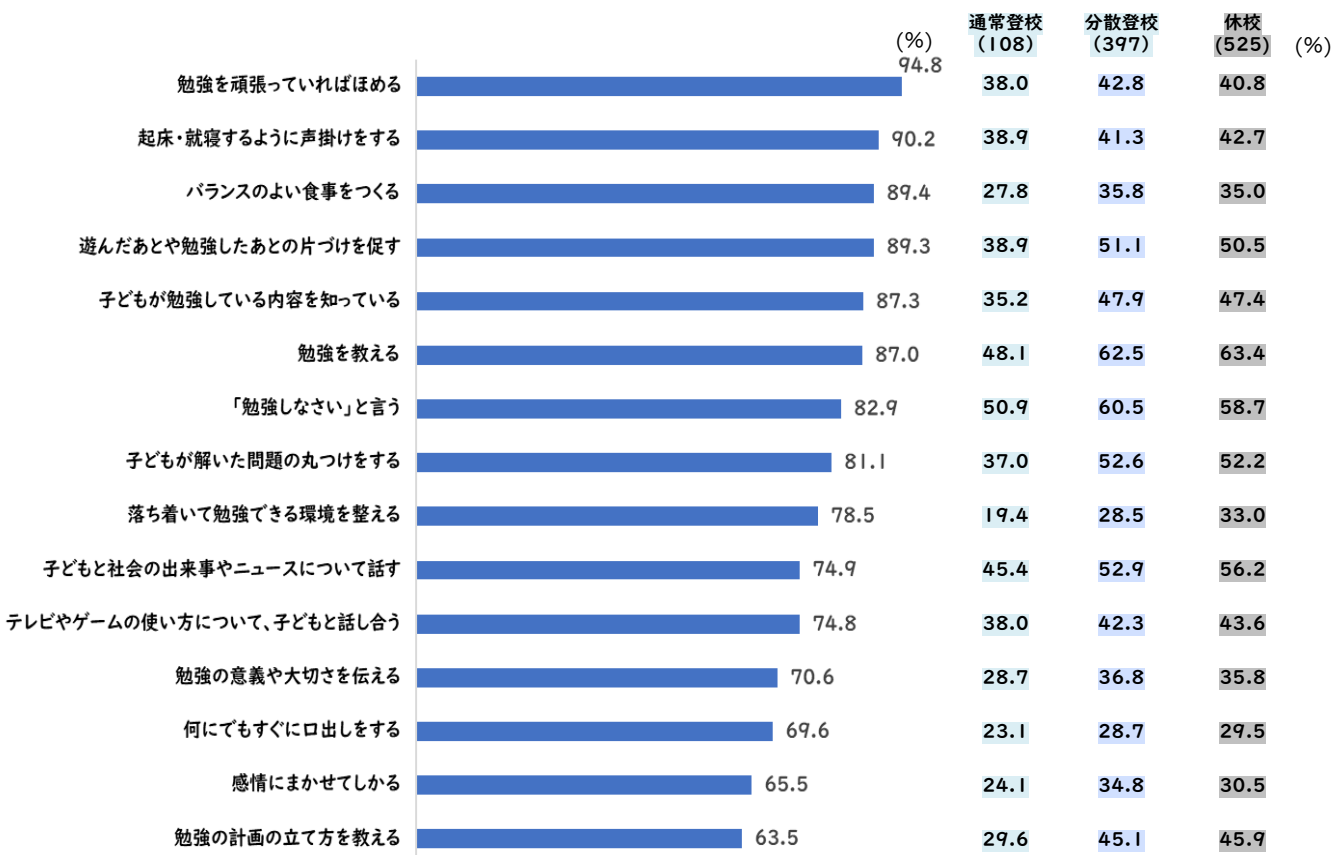
調査時点(2020年5月)での母親の子どもへの関わりについて尋ねた。関わりの実態をみると、いずれの項目も「よく+ときどきする」と回答した割合が約6~9割となっており、母子の関わりが多い様子がわかる。また新型コロナウイルス以前(同年1月)からの関わりの変化を登校状況別にみると、休校地域では通常登校地域に比べすべての項目で「増えた」と回答した割合が多い。5割以上「増えた」関わりとしては、片づけを促す、勉強を教える、勉強しなさいと言う、丸つけをする、子どもとニュースについて話すことを挙げられる。

Q.現在(調査時点)、対象のお子様の生活や勉強に対するあなたの関わりについて、以下のことはどれくらいあてはまりますか。  
Q.2020年1月の平日と比べて変化はありますか。

■図4-3-1 母親の子どもの生活や学習への関わりの実態と変化

①2020年5月 関わりの実態(小学生全体)

②関わりの変化(登校状況別)



※母親の関わりについて、「よく+ときどきする」の%。  
※降順に表示。

※母親の関わりについて、「2020年1月の平日と比べて変化はありますか。」と尋ねた質問で、「増えた」と回答した%。  
※小1の母親に尋ねていないため、小2~小6の母親の回答となる。

# 5 デジタルメディアの活用実態と意識の変化

## ①小学生の活用実態



コロナ以前より、ゲームと動画の視聴時間が増加。

調査時点(2020年5月)のデジタルメディアの使用時間と新型コロナウイルス以前(同年1月)からの変化を尋ねた。小学生全体で、1日平均ゲームをする時間は53.2分、動画を見る時間は63.0分となっており、この2つがデジタルメディア使用時間の6割を占める。1日平均の合計をみると、低学年より高学年のほうが50分以上デジタルメディアの使用時間が長い。また新型コロナ以前と比べ「増えた」と回答した割合が多いのは、動画を見る(約7割)、ゲームをする(5割)となっている。

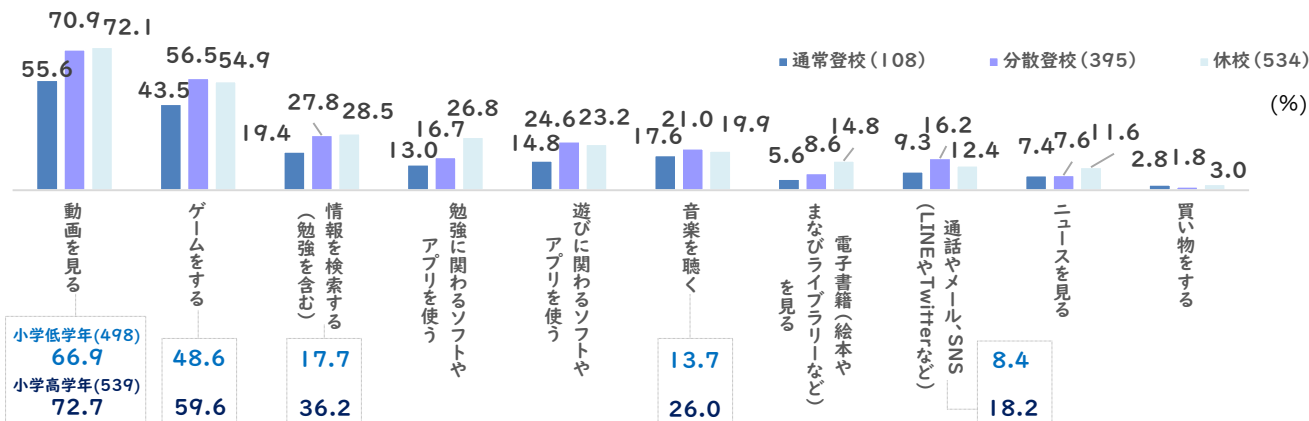
Q.対象のお子様は、現在(調査時点)、平日1日に、ご家庭でデジタルメディア(パソコン、タブレット[iPadなど]、スマートフォン)を使って以下のことをどれくらいの時間していますか。/Q.2020年1月の平日と比べて変化はありますか。

■表5-1-1 2020年5月の平日1日あたりのデジタルメディアの平均使用時間(小学生全体 登校状況別 小学低学年と高学年)

	全体 (1,037)	通常登校 (108)	分散登校 (395)	休校 (534)	小学低学年 (498)	小学高学年 (539)	(分)
動画を見る	63.0	49.3	65.9	63.7	58.5	67.1	
ゲームをする	53.2	40.8	53.9	55.2	42.4	63.2	
遊びに関わるソフトやアプリを使う	18.0	13.9	17.5	19.1	17.2	18.7	
情報を検索する(勉強を含む)	12.1	9.0	11.2	13.4	8.8	15.2	
音楽を聴く	10.1	10.6	9.5	10.3	7.4	12.5	
勉強に関わるソフトやアプリを使う	9.8	6.9	7.2	12.4	10.4	9.3	
通話やメール、SNS(LINEやTwitterなど)	8.9	8.2	9.2	8.8	5.3	12.2	
電子書籍(絵本やまなびライブラリーなど)を見る	5.7	4.9	4.1	7.2	5.0	6.4	
ニュースを見る	5.1	4.4	3.6	6.3	4.0	6.1	
買い物をする	2.9	3.9	1.8	3.6	3.1	2.8	
合計	188.8	151.9	183.9	200.0	162.1	213.5	

※家庭で「パソコン」「タブレット」「スマートフォン」というデジタルメディアの所有状況と使用有無を尋ねた質問で、「家がない」「家にあるが使っていない」と回答した人は集計対象から除く。  
 ※「オンラインで授業を受ける(学校や習い事、塾を含む)」は家庭での学習時間としてカウントしているため、こちらの表から除外した。  
 ※全体の降順に表示。

■図5-1-2 2020年1月と比べて、平日1日あたりのデジタルメディアの使用時間の変化(登校状況別)



※家庭で「パソコン」「タブレット」「スマートフォン」というデジタルメディアの所有状況と使用有無を尋ねた質問で、「家がない」「家にあるが使っていない」と回答した人は集計対象から除く。  
 ※「オンラインで授業を受ける(学校や習い事、塾を含む)」は家庭での学習時間としてカウントしているため、こちらの表から除外した。  
 ※2020年1月の平時と比べて、デジタルメディアの活用に変化があるかを尋ねた質問で、「増えた」と回答した%。 ※休校の降順に表示。

# 5 デジタルメディアの活用実態と意識の変化

## ②母親の意識の変化と学習活用のメリット

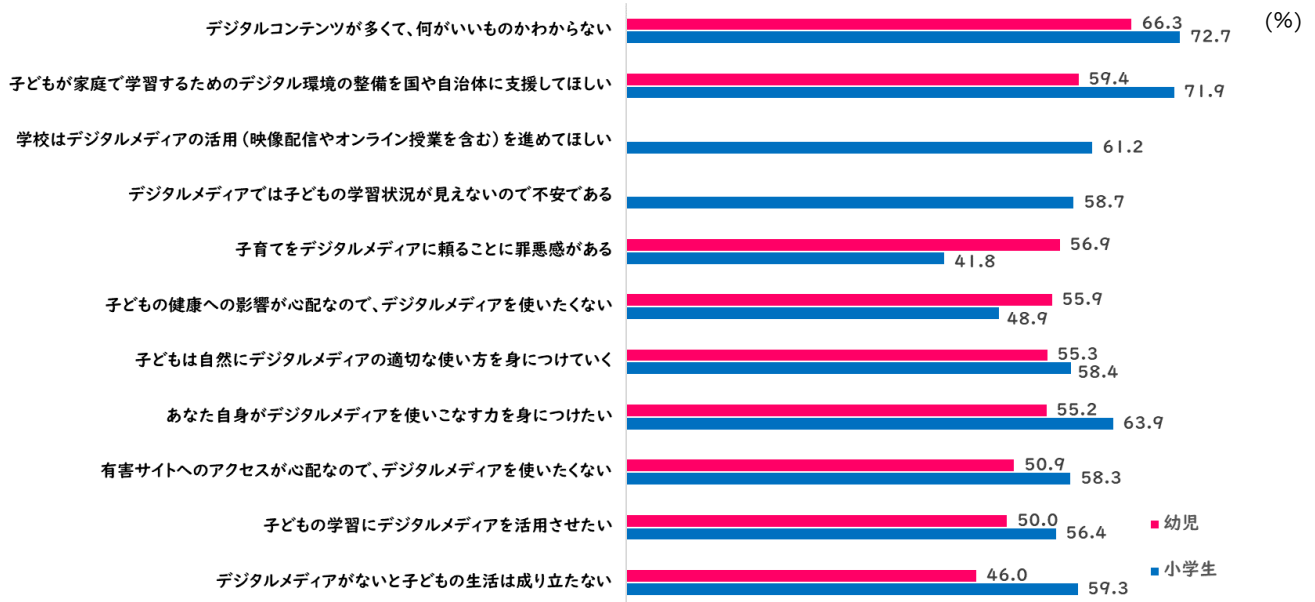


約5割の母親が、デジタルメディアを  
学習で活用したいと考えている。

母親に、子どもがデジタルメディアを活用することについて尋ねた。新型コロナウイルス流行以降のデジタルメディアへの意識の変化をみると、子どもの健康の心配からデジタルメディアを使用したくないと回答する母親が約5割いる一方で、子どもの学習にデジタルメディアを活用したいと回答する母親も約5割存在する。学習にデジタルメディアを活用するメリットについては、どこでもできる利便性、楽しくできる意欲面、自ら進んでやる主体性が上位にあがっている。

Q. 対象のお子様のデジタルメディア（パソコン、タブレット[iPadなど]、スマートフォン）の活用に対するあなたの考えをお聞きます。次のことについて、コロナ流行の前よりも今のほうが、そう思うようになりましたか。

■ 図5-2-1 子どものデジタルメディアの活用に対する母親の意識の変化（幼児と小学生）

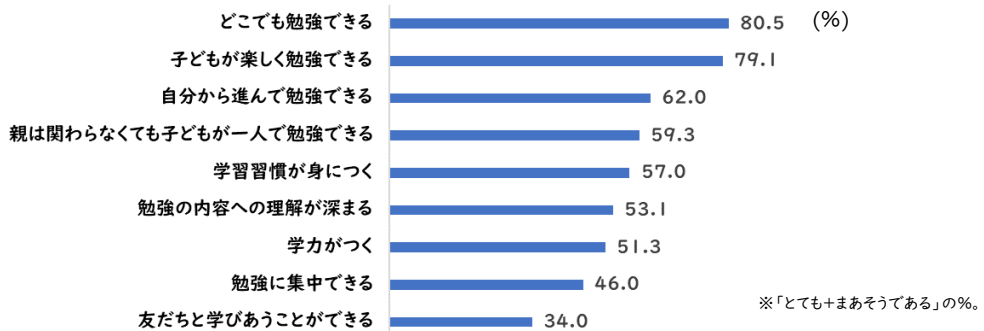


※「とても+まあそうである」の%。

※ デジタルメディアの利活用での意識の変化について尋ねた15項目のうち、幼児と小学生のどちらか、「とても+まあそうである」と回答した割合が5割を超えた11項目を図示。

Q. あなたは、対象のお子様のデジタルメディアを活用した学習について、以下のことはどれくらい思いますか。

■ 図5-2-2 デジタルメディアの学習での活用にあたって感じるメリット（小学生全体）



※「とても+まあそうである」の%。

## ①母親の悩みや気がかり

約6割の母親が、子どもが身体を動かす機会がないことが気がかり。

新型コロナウイルス流行に伴う母親の悩みや気がかりについて尋ねた。幼児、小学生の母親ともに、遊べる場所がない、身体を動かす機会がない、友だちと会えない、といったステイホームゆえの項目が上位にきている。小学生の母親の約4割は、勉強の遅れや、宿題サポートへの気がかりもあげている。緊急事態宣言区域別でみると、継続地域と解除地域で差が最も大きいのは、幼小ともに「園・学校・塾などの再開時期の見通しがもてない」ことである。

Q.あなたは、新型コロナ流行に伴い、対象のお子様やあなたご自身のことについて、以下のような悩みや気がかりがありますか。

■表6-1-1 母親の悩みや気がかり

	緊急事態宣言区域別				(%)
	全体	継続地域(358)		解除地域(672)	
子どもが遊べる場所がない	57.9	62.3	>>	55.5	※複数回答。 ※全体の降順に表示。 ※*1.テレビ・DVDを見ている人のみの%。 ※5ポイント以上差がある項目に>>をつけている。 ※緊急事態宣言区域は、調査時期において緊急事態措置が実施されていた北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県のみを5都道県の回答。
子どもが身体を動かす機会がない	57.0	66.2	>>	52.1	
子どもが友だちと会えない	53.9	60.1	>>	50.6	
子どもがテレビやDVDをみる時間が増えている*1	49.1	53.0	>>	47.0	
家で子どもにさせる(する)ことがない	44.7	51.1	>>	41.2	
(ウイルス感染が心配で)病院に行きにくい	41.0	40.5		41.2	
子どもが先生や地域の人などのつながりをもてない	30.1	38.0	>>	25.9	
生活リズムが崩れがちになる	29.7	34.6	>>	27.1	
子どもがゲーム機やデジタルメディアを使う時間が増えている	21.7	26.3	>>	19.2	
乳幼児健診や予防接種を受けられない(受けにくい)	21.3	21.2		21.3	
(あなた自身が)園・学校や地域とのつながりをもてない	19.7	22.3		18.3	
園・学校・塾などの再開時期の見通しがもてない	17.2	31.0	>>	9.8	
子どもの食生活が乱れている	16.5	18.2		15.6	
(自宅にいる時間が増えることで)近所との騒音トラブルが気になる	14.4	18.7	>>	12.1	
子どもがマスク着用や手洗いをしてくれない	11.4	10.1		12.1	
その他	1.4	2.2		0.9	
特になし	6.5	4.5		7.6	

	緊急事態宣言区域別				(%)
	全体	継続地域(443)		解除地域(793)	
子どもが身体を動かす機会がない	68.0	71.7	>>	65.9	※複数回答。 ※全体の降順に表示。 ※*1.テレビ・DVDを見ている人のみの%。 ※5ポイント以上差がある項目に>>をつけている。 ※緊急事態宣言区域は、調査時期において緊急事態措置が実施されていた北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県のみを5都道県の回答。
子どもが友だちと会えない	63.1	69.5	>>	59.6	
子どもが遊べる場所がない	49.9	53.6	>>	47.9	
子どもがゲーム機やデジタルメディアを使う時間が増えている	47.3	52.0	>>	44.7	
子どもがテレビやDVDをみる時間が増えている*1	46.6	45.5		47.2	
勉強が遅れがちになる	43.6	41.4		44.8	
学校から出される宿題・課題への取り組みの確認やサポートが負担だ	40.5	42.8		39.2	
生活リズムが崩れがちになる	40.2	43.0		38.7	
(ウイルス感染が心配で)病院に行きにくい	30.6	33.7		28.8	
家で子どもにさせる(する)ことがない	29.8	29.2		30.1	
子どもが先生や地域の人などのつながりをもてない	28.6	34.8	>>	25.2	
家庭での勉強のペースが作れない	26.0	25.6		26.2	
園・学校・塾などの再開時期の見通しがもてない	23.8	38.9	>>	15.4	
学校からの宿題・課題が少ない	22.6	21.9		22.9	
子どもの食生活が乱れている	19.7	19.5		19.9	
(あなた自身が)園・学校や地域とのつながりをもてない	10.0	13.1		8.3	
(自宅にいる時間が増えることで)近所との騒音トラブルが気になる	8.6	11.1		7.2	
子どもがマスク着用や手洗いをしてくれない	4.1	3.2		4.7	
その他	0.8	1.4		0.5	
特になし	3.0	2.5		3.3	

①幼児(全体・緊急事態宣言区域別)

②小学生(全体・緊急事態宣言区域別)

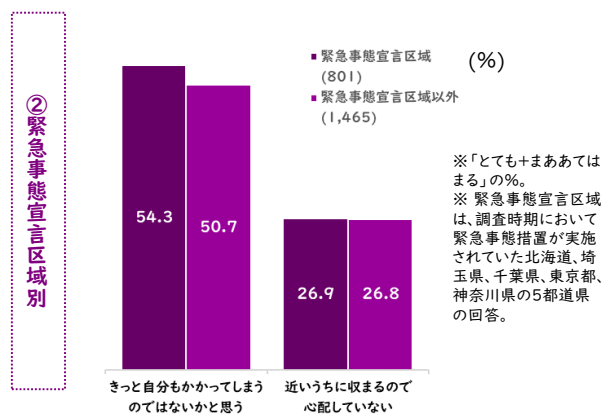
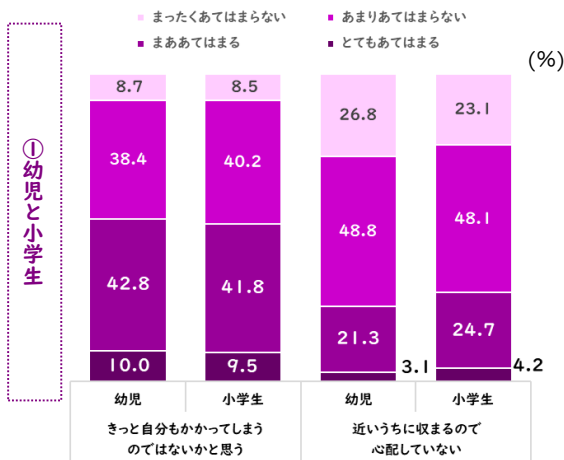
## ②新型コロナの受け止めや家庭教育や園・学校に関する意識

約8割の母親は、家庭だけでは  
子どもの育ち・学びは成立しないと考えている。

新型コロナウイルスの受け止め方や家庭教育や学校・園について尋ねた。幼児・小学生ともに、約5割の母親は「きっと自分もかかってしまうのではないかと思う」（「とても+まああてはまる」）と考えており、「近いうちに収まるので心配していない」と楽観視する回答は2割台にとどまっている。家庭教育や園・学校に関する意識では、約8割の母親が、「家庭だけでは子どもの育ち・学びは成り立たない」、「子どもが園・学校に通わないと保護者の負担が大きすぎる」（「とても+まああてはまる」）と回答している。

Q. コロナ流行について、あなたはどのように感じていますか。

■ 図6-2-1 新型コロナの受け止め

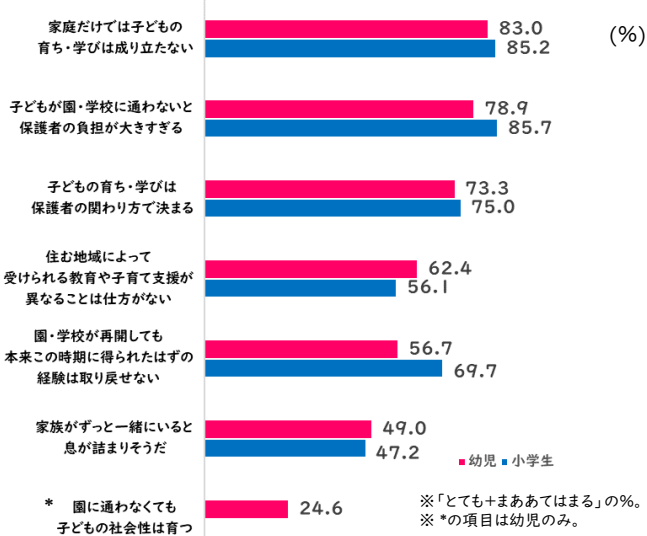


※「とても+まああてはまる」の%。  
※ 緊急事態宣言区域は、調査時期において緊急事態措置が実施されていた北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、5都道県の回答。

Q. あなたの生活や子育て、子どもの教育についてのお考えをお聞きます。

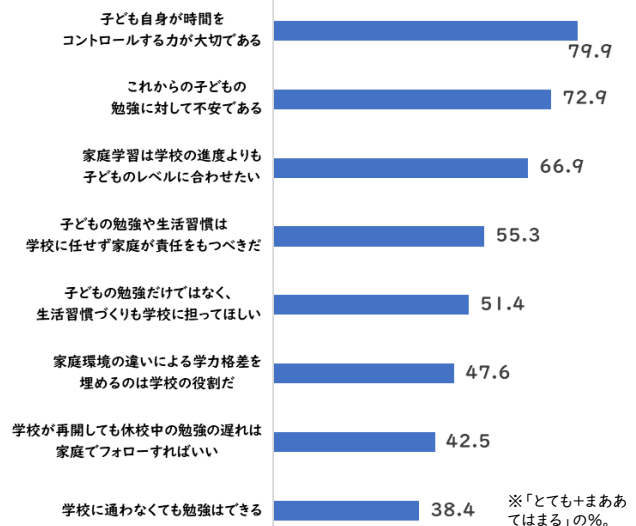
次のことについて、コロナ流行の前よりも今のほうが、そう思うようになりましたか。

■ 図6-2-2 家庭教育や学校・園に関する意識 (幼児と小学生)



※「とても+まああてはまる」の%。  
※ \*の項目は幼児のみ。

■ 図6-2-3 学習に関する意識 (小学生)



※「とても+まああてはまる」の%。



## ③子育てや教育について感じることー自由回答よりー



幼児の母親



小学生の母親

●園や学校、地域との関わり	家族だけではなく、 <u>園・地域の大人や子ども同士の間わりで子どもは大きく育っていくものだと改めて感じる。</u>	子どもは外で <u>家族以外の人と接することで成長できるのだと感じた。</u>	子どもの教育、学習は、 <u>家庭だけではうまく指導できないと強く感じました。</u>	<u>学校での集団学習はやはり必要だ</u> と感じた。自宅一人で勉強するのは低学年だと特に難しいと感じた。
●保護者の関わり	ある程度は親が子どもの教育に関わらないと、 <u>教育格差</u> が出る。	<u>家庭によって子どもに関われる時間が違う。</u> 登園できないと差ができてしまう。	勉強の習慣は学校のみで作られるものではなく、 <u>家庭での親の間わり方や環境の作り方で大きく違っていき</u> のだと実感した。	親が勉強する習慣をつかせなければ、 <u>子どもは勉強を進んでしないので、学校ばかりに頼っているのはダメ</u> だと思った。
●保護者の負担感	朝から晩までずっと一緒だと <u>イライラがたまって切れやすくなった。</u>	3人の子どもを相手にすると、 <u>教育の面では負担に感じる部分が多</u> くありました。	教育を学校や塾で受けさせてもらっていたが、 <u>それがなくなると親がすべてを負担</u> しなければならぬのが大変だと感じた。	新年度の学習に、 <u>一から親が関わることが、こんなにも負担が大きい</u> とは…
●園での子どもの育ち	子どもが成長していく上で、 <u>たくさんのお友達との間わり、先生との間わりがとても大切</u> なんだって思った。	人間関係や生活習慣など、 <u>集団生活でないと学べない</u> ことが多い。	—	—
●子どもの自己管理	—	—	子どもたちの自己管理能力がとてもよくわかる期間になった。6年生の息子は、 <u>全く自己管理ができていないので大きな課題</u> と感じた。	自分で時間を管理したり、 <u>今何をすべきかを自分で考えて行動する力</u> を身につけてほしいと思いました。
●子どもの勉強への不安	—	—	コロナ前でも少なからず <u>教育格差があったので、コロナ休校後の授業進行が心配</u> 。	<u>学習の遅れが心配</u> です。休校前から、成績は下位の方だったのでなおさらです。

※「コロナの流行を経験して、あなたの子育てや教育についての考え方が変わったり、新たに感じたりしたことがあれば教えてください。」「コロナの流行を経験して、これからの子育て・教育についてこうなってほしい、またはあなたがこうしたいと思うことがあれば教えてください。」への自由回答より、趣旨はそのままに一部を編集した。

# 6 母親の悩み・意識や考え・気持ち

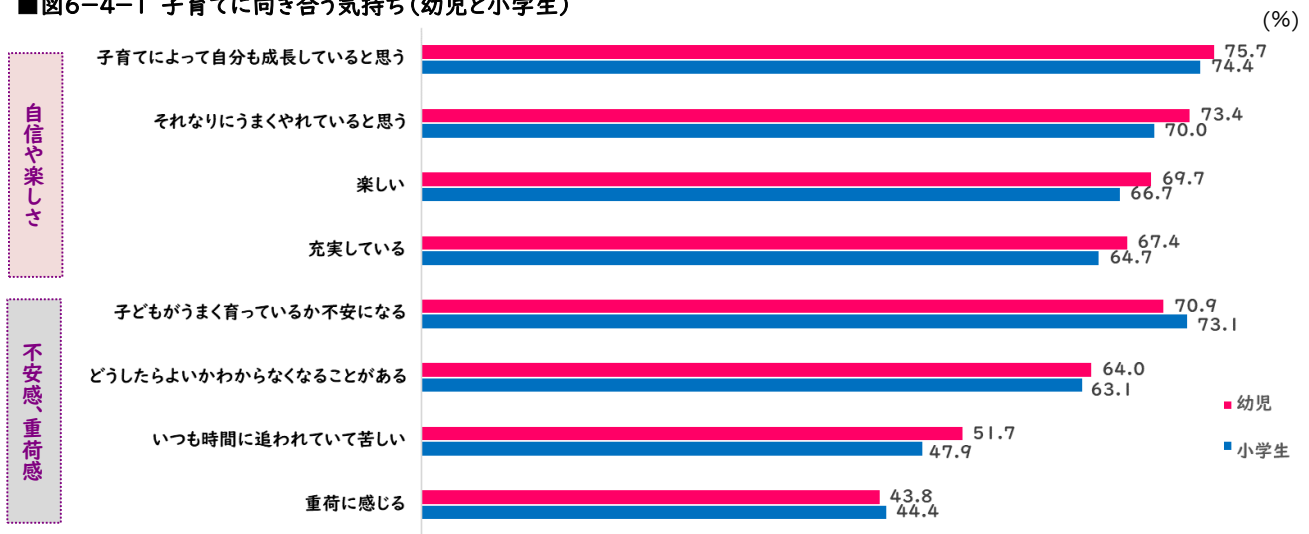
## ④子育てに向き合う気持ち

コロナ罹患への不安が大きい母親のほうが、子育てに不安と負担を感じている。

子育てに向き合う気持ちを尋ねた。幼小ともに約7割の母親が「子育てによって自分も成長していると思う」、「それなりにうまくやれていると思う」、「楽しい」、「充実している」（「とても+まああてはまる」）と回答する一方で、同程度の母親が「子どもがうまく育っているか不安になる」とも回答している。また、子育てへの不安感、重荷感、新型コロナウイルスに罹患する不安が大きい母親のほうが高くなっている。

Q.対象のお子さまの子育てについて、現在、以下のことはどれくらいあてはまりますか。

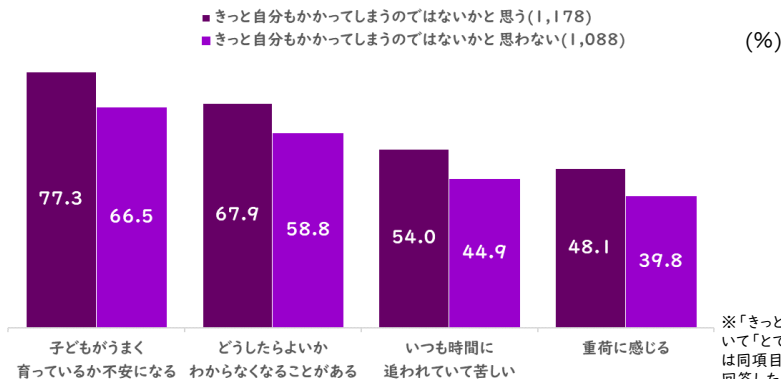
■図6-4-1 子育てに向き合う気持ち（幼児と小学生）



※「とても+まああてはまる」の%。

※調査項目は「乳幼児の生活と育ちに関する調査2017-2019」（東京大学Cedep・ベネッセ教育総合研究所）を参考にした。

■図6-4-2 子育てに向き合う気持ち（不安感、重荷感）（新型コロナウイルスの罹患不安別）



※「きっと自分もかかってしまうのではないかと思う」は、同項目について「とてもあてはまる+まああてはまる」と回答した人、「思わない」は同項目について「あまりあてはまらない+まったくあてはまらない」と回答した人を指す。

# 7 子育てを通じた人とのつながり、配偶者・パートナーの関わり

## ① 家族意識や人とのつながり

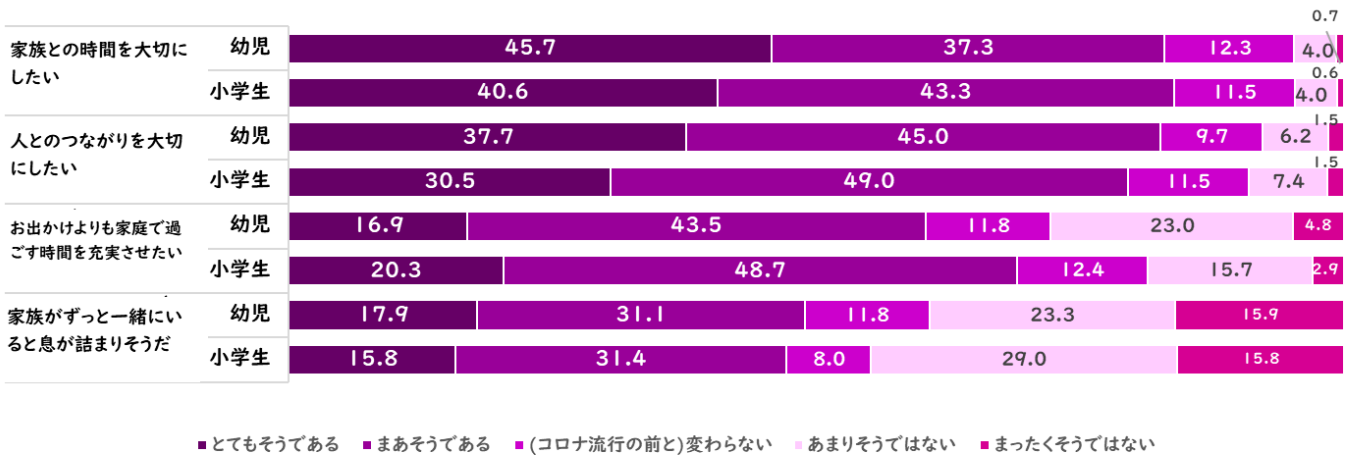
約8割の母親がコロナ以前より、  
家族や人とのつながりを大切にしたい。

家族や人とのつながりについて、新型コロナウイルス流行による意識の変化を尋ねた。幼児・小学生ともに「家族との時間を大切にしたい」、「人とのつながりを大切にしたい」（「とてもまああてはまる」と回答した割合が約8割となっている。オンラインを通じたつながりについて、「趣味や学習に取り組みたい」、「子育てに取り入れたい」といった前向きな回答（「とてもまああてはまる」）は約4割程度にとどまる一方で、「人とつながる感覚がもちにくい」とやや消極的な回答は約5割となっている。

Q.あなたの生活や働き方についての考え方について、コロナ流行の前よりも今のほうが、そう思うようになりましたか。

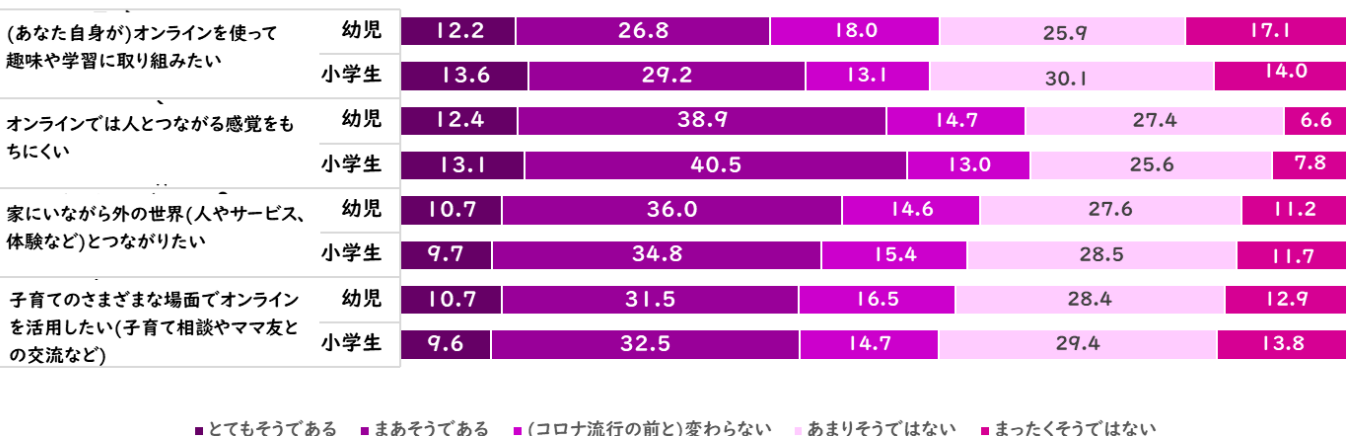
■ 図7-1-1 家族や人とのつながり意識（幼児と小学生）

(%)



■ 図7-1-2 オンラインを通じた人とのつながり（幼児と小学生）

(%)



# 7 子育てを通じた人とのつながり、配偶者・パートナーの関わり

## ②人とのつながり、配偶者・パートナーの関わり

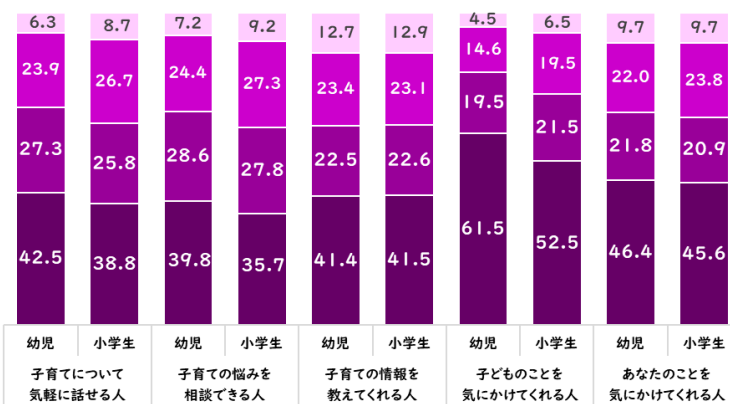
子育てを通じた人とのつながりがある母親のほうが、子育てに楽しさを感じ、不安が少ない。

子育てに関わる人や気持ちについて尋ねた。子育てを通じた人とのつながりをみると、幼小ともに情報を教えてくれる人や自分自身を気にかけてくれる人が「1人もいない」と回答した母親が約1割程度いる。子育てに向き合う気持ちとの関係を見ると、子育てを通じた人とのつながりが多い母親のほうが、また配偶者・パートナーから心理的なサポートを受けていると感じる母親のほうが、子育てに自信や楽しさを感じている。

Q.あなたが子育てをするうえで、現在(調査時点)、以下の人(配偶者・パートナーは除く)はどれくらいいますか。(図7-2-1)  
Q.対象のお子さまの子育てについて、現在、以下のことはどれくらいあてはまりますか。(図7-2-2)

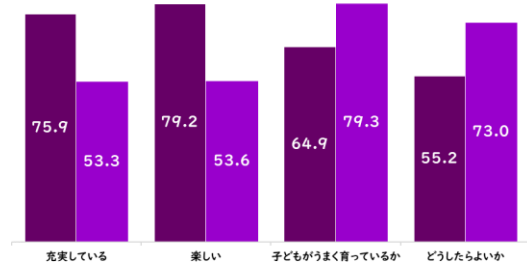
■ 図7-2-1 子育てを通じた人とのかかわり(幼児と小学生) (%)

● 1人もいない ● 1人はいる ● 2人はいる ● 3人以上いる



■ 図7-2-2 子育てに向き合う気持ち(つながり多・少群) (%)

■ つながり多群(751) ■ つながり少群(759)

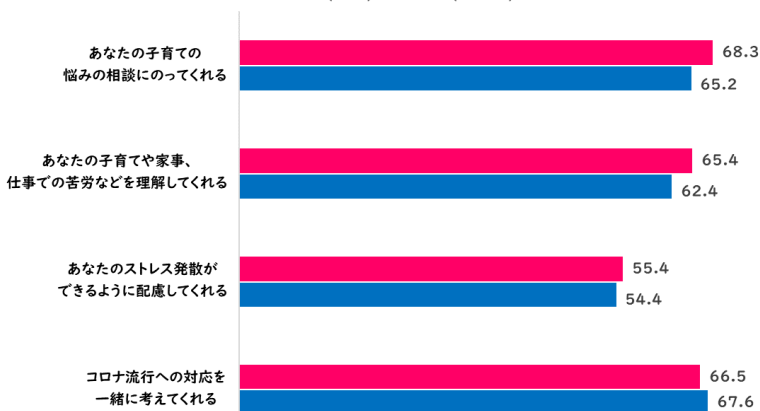


※「とても+まああてはまる」の%。  
※つながり多群・少群は、図7-2-1の5項目について、「1人もいない」を0点、「1人はいる」を1点、「2人はいる」を2点、「3人以上いる」を3点として、合計得点をもとに少群、中群、多群となるように3区分した(中群は省略)。

Q.あなたの配偶者・パートナーと対象のお子さまやあなたとの関係について、現在(調査時点)、以下のことはどれくらいあてはまりますか。

■ 図7-2-3 配偶者・パートナーからの心理的サポート(幼児と小学生) (%)

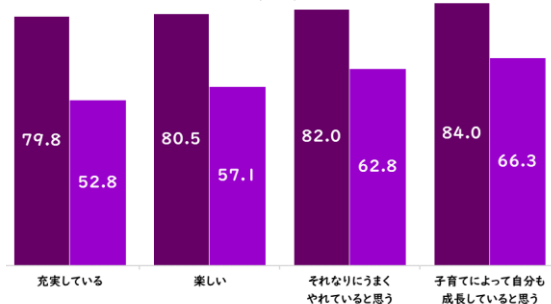
■ 幼児(988) ■ 小学生(1,151)



※「とても+まああてはまる」の%。 ※配偶者・パートナーがいる2,139人が回答。

■ 図7-2-4 子育てに向き合う気持ち(自信や楽しさ)(配偶者・パートナーからの心理的サポート多群・少群) (%)

■ サポート多群(588) ■ サポート少群(885)



※「とても+まああてはまる」の%。 ※配偶者・パートナーがいる人が回答。  
※サポート多群・少群は、図7-2-3の4項目について、「とてもあてはまる」を4点、「まああてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「まったくあてはまらない」を1点として、合計得点をもとに少群、中群、多群となるように3区分した(中群は省略)。

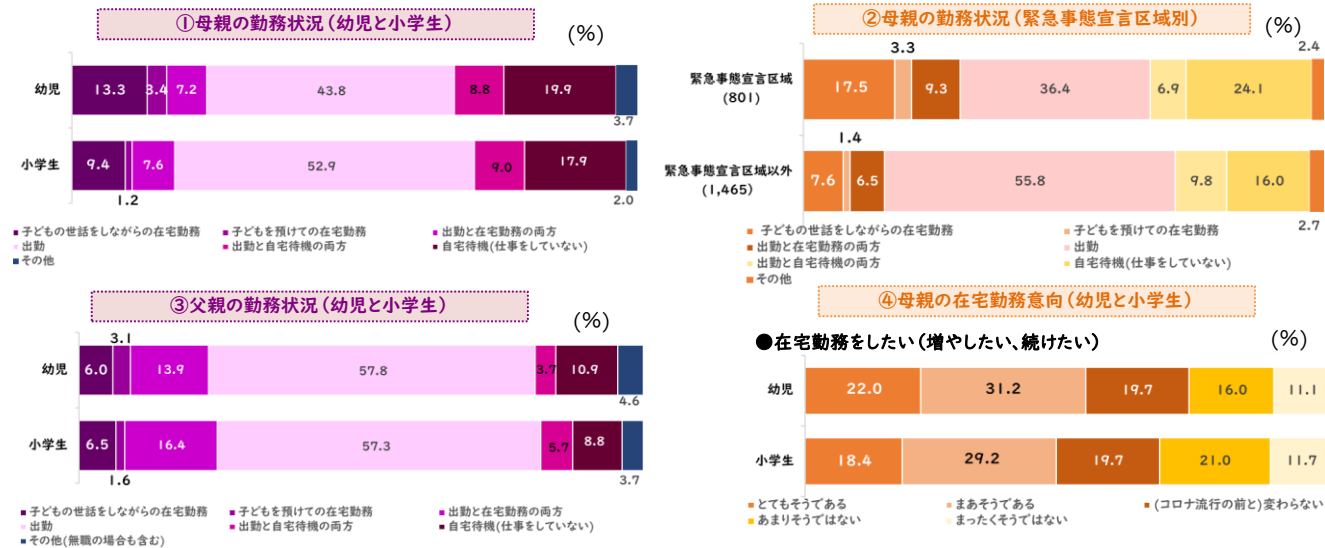
# 8 勤務状況、世帯年収、教育費の見通し

約6割の世帯が教育費支出は「変わらない」と回答。

勤務状況を見ると、「自宅待機」と「出勤と自宅待機」と母親の3割弱、父親の1割強が回答している。緊急事態継続地域はその他の地域より「自宅待機」や「子どもの世話をしながらの在宅勤務」の母親が多い。「在宅勤務」をしている母親は全体で2割程度いるが、約5割の母親が新型コロナウイルス流行前よりも、在宅勤務への要望がより高くなったと回答している。幼児・小学生ともに5割強が、世帯年収が「減る」と思うと回答する一方で、今後1年の教育費支出については、約6割は「変わらないと思う」と回答している。

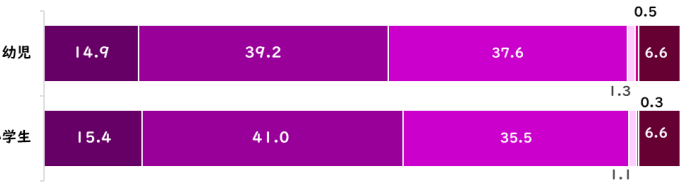
Q.現在(調査時点)のあなた、また配偶者・パートナーの現在の勤務体制を教えてください。(①②③)／Q.あなたの生活や働き方についてのお考えをお聞きます。次のことについて、コロナ流行の前よりも今のほうが、そう思うようになりましたか。(④)

■ 図8-1 2020年5月の母親と父親の勤務状況と今後の意向(幼児と小学生)

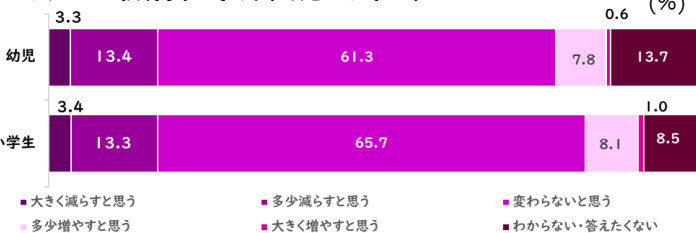


Q. コロナの流行により、あなたのご家庭の世帯収入に変化はあると思いますか。／Q. 今後1年間の、対象のお子さまの教育費(塾、通信教育、習い事、絵本、玩具にかかる費用)は、コロナ流行前に予定していた金額から変わると考えますか。※園(幼稚園・保育園・認定こども園)などの保育料や園で有料で習っている習い事の費用や、学校の授業料や教材費は除きます。

■ 図8-2 世帯年収の予測(幼児と小学生)

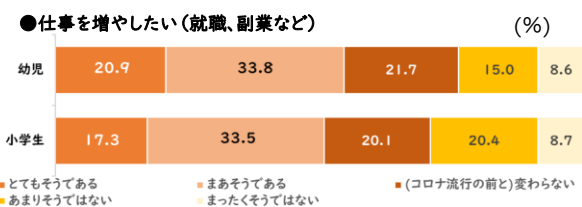


■ 図8-4 教育費の予測(幼児と小学生)



Q. あなたの生活や働き方についてのお考えをお聞きます。次のことについて、コロナ流行の前よりも今のほうが、そう思うようになりましたか

■ 図8-3 仕事量の意向(幼児と小学生)



世帯年収が「大きく+多少減らすと思う」と回答している人のうち、幼児では63.7%、小学生では59.0%が「仕事を増やしたい」と回答。

# 調査監修・協力・企画・分析メンバー

## 【調査監修】

- 榊原 洋一 ベネッセ教育総合研究所常任顧問。チャイルド・リサーチ・ネット所長。  
お茶の水女子大学名誉教授
- 安藤 智子 筑波大学人間系教授

## 【協力】

- 木村 治生 同研究所主席研究員

## 【企画・分析】

- 高岡 純子 同研究所主席研究員
- 真田 美恵子 同研究所主任研究員
- 持田 聖子 同研究所主任研究員
- 邵 勤風 同研究所主任研究員
- 李 知苑 同研究所研究員

## ベネッセ教育総合研究所 WEB サイトのご案内

本ダイジェスト版およびベネッセ教育総合研究所で実施している各種調査結果は、以下のサイトでご覧いただけます。

<https://berd.benesse.jp/>

「幼児・小学生の生活に対する  
新型コロナウイルス感染症の  
影響調査  
-2020年5月実施-」  
ダイジェスト版

発行日 2020年11月18日

発行人 谷山 和成

編集人 高岡 純子

発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所

編集協力 松本 留奈